

中期事業計画 2025-2027

1	中期事業計画 2024 実績	・・・・・・・・・・・・・・・・	P1
2	中期事業計画 2025-2027	・・・・・・・・・・・・・・・・	P17

1 中期事業計画 2024 実績

【法人本部】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2024	進捗状況
経営の安定	事業の拡充	障がい者サービス事業（グループホーム等）の拡充	<豊田地区>グループホーム施設整備計画策定	グループホーム運営会社による不正問題の影響もあり、豊田地区の状況把握に留まった
			<春日井地区>ワーカー鷹来の多機能化の検討	春日井市が運営する総合福祉センターの再整備計画により、「福祉作業所」廃止に伴う利用者の受入れ先について市からの要望があり、ワーカー鷹来施設内への生活介護事業の設置について検討に着手（R9年度事業）
		介護サービス事業（グループホーム等）の拡充	有料老人ホーム等の事業検討	県内他法人の設置状況調査を実施。建設コストの増大など資金面において課題が多く事業構想段階には至らず
		在宅サービス充実強化による利用者の確保	新たなサービス内容の充実及び提供	デイサービスの法人内他事業所体験を通じ、各事業所にて業務改善を実施
	情報発信力の強化	利用者・家族及び広く地域社会への情報発信	SNSによる発信の充実とホームページ、法人広報誌リニューアル	ホームページの大幅リニューアル、SNS（インスタグラム）の導入、法人広報誌の季刊発行、各施設パンフレットの見直しを実施
	地域との交流・地域貢献の促進	法人施設を活用した地域交流、地域連携事業の実施	地域交流・地域貢献事業の拡大支援	春緑苑、大府の郷、若草苑において地域貢献事業を推進
利用者サービスの向上	職員の確保	外国人介護士の受入拡大	在留資格「特定技能」制度による外国人介護士の受入	「特定技能」制度による外国人介護士6名の受入実施
		専門学校等との連携強化による学生（日本人・留学生）の安定確保	専門学校等との連携強化について協議	専門学校1年生課程修了者への奨学金制度適用の検討、実施
		奨学金制度を活用した遠隔地高校生・専門学校生の採用増	他県の高校、専門学校への情報提供	情報提供を実施するも、採用には繋がらず。次年度以降も引き続き実施
		SNSやデジタルサイネージを活用した学生への法人のPR強化	効果を検証し、継続実施の判断	十分な反響が得られなかったため、掲載を一旦中止とした。引き続き、他の広報手段も含め検討していく
		インターンシップ、オープンカンパニーの受入実施《新規》	専用サイト等を活用した受け入れ実施	現在までに30名以上が参加。今後も専用サイトや広報で参加者を増やしていく

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2024	進捗状況
利用者サービスの向上	職員の確保	提携保育所の拡充	提携保育所の新規開拓	大府地区に新たに1箇所の企業主導型保育所と提携開始。引き続き提携先の拡大実施を目指す
	ICT・介護ロボットの活用	在宅サービスにおけるICT活用による利便性の向上	訪問先でのケアプラン手続き等へのICT導入を再検討、一部の事業所へ導入	春緑苑の居宅介護支援事業所において、訪問先でのPCへの記録入力による効率化を試行
		実用的な介護ロボットの導入	移乗サポートロボットの導入	補助金を活用し、春緑苑に移乗支援ロボット2台、排泄支援ロボット3台導入
		見守り支援機器の導入（サンホーム豊田）《新規》	カメラ型見守り機器の導入	サンホーム豊田において、夜間帯に見守りが必要な利用者の安全確保と職員の負担軽減のため見守りカメラを設置（42台）
	施設設備の計画的な改修・更新	感染症対策強化のための設備の導入	従来型施設（とよた苑、春日苑、サンホーム豊田）における感染対策設備の検討	とよた苑において、短期入所者の居室の個室化及び集約化のための改修工事を実施
		老朽化対策及びサービス向上のための施設・設備の更新	<とよた苑>改修計画の策定、改修工事の実施	とよた苑厨房施設の移設、ケアハウスのエレベーターの更新工事等の実施
			<保見の里>改修計画の策定	施設隣接地の地主との賃貸借交渉、併設ショートステイ事業の設置検討、地域交流スペースの移設等を検討
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	役職者の研修プログラムの再構築によるリーダー職員の育成	将来管理職員として期待される役職者を対象としたリーダー人材の育成	管理職級研修、管理者スキルアップ研修、初任管理者基礎研修の実施
		ICT,ソフトウェアの活用技術の向上	マニュアルの作成及びカスタマイズの実施	介護ソフト「ケアカルテ」のマニュアルは各施設・事業所にて適宜作成。カスタマイズはニーズが少なく未実施
		外国人指導担当者の育成	指導担当者の選定	引き続き指導者育成に努める
		職種間、事業所間交流の促進	事業所間で課題検討、改善 デイサービス一日業務体験の実施	デイサービスの法人内他事業所一日業務体験を実施（6事業所、延べ45名）
	職員のモチベーション向上	ソウェルクラブの活用促進	研修等を通じて具体的な活用例を紹介するなど活用を促進	採用時研修においてソウェルクラブの活用例や概略説明などを実施
		外国人・遠隔地採用者のための職員寮の拡充	随時実施	外国人職員採用時に近隣アパート借上げ（8室）を実施
	業務の改善・効率化	間接業務の負担軽減	データ共有システム「Canbus.」の導入検討、運用	法人本部内での試行後、春緑苑を対象として現場の意見聴取、導入検討を進めたが、効果が見込めず断念

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2024	進捗状況
職員の成長・業務の改善	業務の改善・効率化	ノーリフティングケアの推進《新規》	法人全体でノーリフティングケアを推進 各施設に推進チームを発足、移乗支援のための機材の導入	法人全体でノーリフティングケアを推進することとし、各施設に推進チームを設置。肘跳ね上げ式車椅子54台、移乗支援ロボット2台、排泄支援ロボット3台を導入
		高齢者、障がい者雇用の促進	シーツ交換、洗濯、清掃などの間接業務を担う高齢者、障がい者雇用の促進	障がい者雇用として、春日苑に2名の清掃員を新たに採用
		顧問弁護士の配置《新規》	顧問契約、各施設へのサポート実施	「弁護士法人フロンティア」の高橋弁護士と顧問契約を締結。利用契約書の見直しに係る法的チェック、施設からの法的相談など計5件対応。また、施設長を対象とした「安全配慮義務」の勉強会の開催等を実施

【春緑苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	認知症に関する取組み強化による地域住民等の理解向上	共通	認知症カフェの試行、評価	同じエリアの他法人事業所が実施しており、新たに実施することが困難であるため中止
				VR体験会の実施と学習会の実施	VR体験会、学習会を各1回実施。取り組みが定着したため計画から外す
				介護者向けサロンの定期開催	地域包括支援センターにて介護者向けサロンを開催。今後は、認知症に限定せず地域で介護をしている方々への支援を行う方向にシフトする
	情報発信力の強化	行事・機関紙等の充実	デイ	予防フロアを活用した地域交流、地域連携事業の実施	交流地域の拡大
機関紙の内容の検討 発信方法の検討				春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会（居宅連）などを通じて、研修への参加や「みまもりあいアプリ」の啓発活動の中で事業所からの情報発信を試行	
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	感染症対策のための施設改修の実施 重度化に対応するための寝浴導入	特養	継続検討	アフターコロナへの転換により、面会も以前の状態に戻りつつあり、感染対策のための改修は中止
				工事、導入、運用	2・3期棟の浴室に導入

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	感染症対策のための空気清浄機の設置	特養	実施、運用	ショート棟の3・4階食堂に空気清浄機を1台ずつ導入。次年度以降、特養への導入を検討
	職員の確保	職員のストレス軽減		継続人員確保	ハローワーク等による受身での人員確保は困難であったため、次年度から介護実習の受入れ、福祉施設見学ツアーの企画、運営をし人員を確保していく
	相談窓口の新設	担当地区（高森台・石尾台）内に相談窓口を新設	包括	実施	東部市民センターでの出張相談会を3か月に1回実施
職員の成長・業務の改善	職員のモチベーション向上	相談員と施設ケアマネの業務内容の見直し	特養	継続検討	相談員と施設ケアマネの入院後から退所までの流れの確認、対応方法の統一を実施。また、業務の改善により風通しが良くなり、モチベーションの低下も見られないため終了とする
	職員の資質向上	介護支援専門員資格取得の推進 認知症実践者研修、認知症管理者研修等の参加	デイ	実施	介護支援専門員1名受験、認知症対応型サービス管理者研修1名受講予定（R6.3）

【第2春緑苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定化	防災対策の強化	BCP見直し体制の整備	共通	実施	<入所>BCP運用推進委員会を発足し毎月実施 <在宅>同委員会を年3回開催予定、内容協議中
		地域及び消防署との連携		実施	地域及び消防署と連携した防災訓練を1回実施（職員23名、消防署員11名、地域住民5名参加）
	地域との交流・地域貢献の促進	ボランティア受入の見直し		感染を考慮したボランティア受入マニュアルの改正（デイ）	<デイ>ボランティア受入マニュアルを改正
	建物の効率的な活用	レイアウトを含めたスペースの活用方法見直し		実施	協議・検討の継続
	稼働安定化のための組織体制整備	相談員を中心とした計画的な活動の実施と評価		特養・デイ	営業目標の策定・進捗管理

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
利用者サービスの向上	職員の確保	実習生受入の強化	共通	実習受入体制整備（担当者の育成、環境整備）	社会福祉士・介護福祉士実習指導者講習各1名受講、実習指導者会議1名出席、実習指導者意見交換会1名参加（介護福祉士施設実習8名、看護実習17名、高校インターンシップ5名受入）
職員の成長・業務の改善	労働環境改善	年次有給休暇の計画的取得推進	共通	付与日数の55%取得	付与日数の72.7%取得（R7.2.1時点）
		配置に合わせたスペースの確保（感染等も配慮）	包括	実施	協議・検討の継続
	職員の資質向上	資格取得支援/内外研修参加促進	共通	実施	介護福祉士実務者研修5名、介護支援専門員更新研修2名実施/内部研修29名、外部研修112名実施
		実習生受入の強化		実習受入体制の整備（担当者の育成、環境整備）	運営目標「利用者サービスの向上」の進捗状況により、実習担当者の育成や実習受入体制の整備につながった
		専門性の向上と標準化	デイ	実施	認知症実践者研修2名、認知症対応型サービス事業管理者研修1名受講。認知症に係る内部研修計画を動画から対面形式に変更
	職員育成とメンタルケア	計画的かつ効率的な面談の実施	共通	2023年度実施内容評価と2024年度面談内容の整理	協議・検討の継続
	間接業務の負担軽減	ペーパーレス化の推進		実施	ペーパーレス化に伴う共有ネットワークの容量増加に係る環境整備の実施（データ容量25%削減）
	業務の標準化	外国人介護職員の指導・教育体制整備	特養	実施	外国人材指導研修1名受講、外部研修7名受講

【とよた苑・東山デイ】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	感染症対応強化	感染症BCPの実用性向上	共通	事業所内でBCP周知と教育実施 BCP運用推進委員会（年2回）における見直しと定着	<入所>BCP運用推進委員会を立ち上げ年2回開催、内容の見直しを実施 <在宅>委員会を年2回開催。法人内の事例研究発表会にてBCP見直し事例をテーマに発表
	稼働率の維持	地域へ情報発信し利用者を確保		地域の他事業所やコミュニティなどへの営業実施	<入所>SNSを活用し活動の情報発信を実施 <在宅>他事業所との調整会議での顔合わせ、事業所訪問を通じた顔の見える関係づくり、空き状況の提供を随時実施
	地域との交流・地域貢献の促進	ボランティアの受入再開と交流活動の実施		ボランティア団体を中心とした交流会の計画実施	<入所>積極的にボランティアの受入を再開。各種音楽演奏ボラ、動物ボラ、職員による楽器演奏会及び家族会役員との合同企画(餅つき・門松作成)を開催 <在宅>ボランティア14件(とよた苑デイ)、30件(東山デイ)受入。相互の改善点を情報交換 ※とよた苑デイは改修工事のため受入れを一時中止
		地域との交流・連携 地域との災害時の協力体制構築		実施	<入所>地域との交流・連携が不十分であり、災害時における協力体制も不確実な状態。交流・連携のきっかけづくりが喫緊の課題 <在宅>自治会の「ふれあい活動」に年に1回参加。民生委員・自治会会長・利用者家族とともに防災訓練を年2回実施(認知症対応型デイ)
		施設の設備を活用した地域交流、地域連携事業の実施	包括	近隣の企業へ「介護離職の防止」をテーマとした介護保険の相談や勉強会の開催を市に企画提案	豊田市に提案したが、地域企業の社員の自宅は豊田市外が多数のため、行政の事業としては難しいとの返答
	事業の充実と稼働率向上	LIFE等のデータを活用した質の高い介護の推進《新規》	共通	検討、実施	<入所>令和6年度介護報酬改定に対応したLIFEのフィードバックの運用が11月以降であることから実際は未活用。今後はカンファレンスにてデータ活用を図る <在宅>フィードバックを活用しての計画書の作成を実施。会議時間の確保が課題

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	事業の充実と稼働率向上	医療機関との連携体制の構築《新規》	特養	検討	豊田地域医療センターとの医療連携体制を構築。定期的な会議等により連携強化
		サービスの充実、特色作りによる利用者の獲得	とよた苑デイ	実施	リニューアルオープンを切り口としてケアマネジャーへ機関紙等を手渡しし情報発信。利用者満足度調査実施
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	厨房の老朽化、衛生・構造的問題解決に向けた改修の実施	特養・とよた苑デイ	検討	厨房施設の移設工事を実施
		特養フロアの感染対策ための施設改修の実施	特養	検討	ショートステイの居室の集約化、個室化のための改修工事を実施
		老朽化した設備（居室内トイレ、ミニキッチン温水器、室内照明）の更新	ケアハウス	設備更新の優先順位を決定し更新計画を策定、順次実施	居室設備の更新は退去時に随時実施。また、エレベーターの入れ替え工事を実施
		感染対策、業務効率を図るための改修計画及び実施	とよた苑デイ	検討、実施（温冷配膳車：厨房移設後）	実施、温冷配膳車はR7年度導入予定
		老朽化・感染予防のための改修	東山デイ	修繕・改修の実施	自施設での定期点検と市への報告を実施（実施箇所：浴室、フロア、厨房）
	職員の確保	継続的な採用活動 登録ヘルパーの確保	ヘルパーステーション	介護福祉士実務者研修等による人材勧誘・採用	法人の職員紹介制度活用にて1名採用。実務者研修の受講者は実績なし
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	チームリーダーとしてメンバーをまとめ、部下の育成指導をする職員を養成し、組織を活性化	共通	個々のレベルに応じたOJT、OFF-JT、SDSを活用した人材育成	<入所>個々のレベルに応じた外部研修への参加、定期苑内教育に取り組んだが、職員は受動的であり効果は得られず。次年度は主体的、効果的な教育を検討・実施予定 <在宅>職員で個々に必要であると考えた研修（内・外部）を上席者と話し合ったうえで計画、実施
		外国人介護職員に対する育成プログラムの作成	特養	育成プログラムの検討	業務プログラムは作成したが、人材育成プログラムは未作成。相談窓口、外国人職員同士の人間関係も考慮した働き方の検討が必要
		ショートステイ運用の見直し《新規》		20床1単位とし1フロアによるケア検討	改修工事により20床1単位化完了

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
職員の成長・業務の改善	業務の改善・効率化	生産性向上に向けた業務改善の取組《新規》	共通	実行計画の策定	委員会を発足し、活動を毎月実施。業務改善、現状把握に関する各種シートを作成中
		ノーリフティングケアによる身体的負担軽減《新規》	特養	ノーリフティングケアの教育と実践	移乗用リフトを2台導入。スライディングボード、対応型車いすの増設を実施

【第2とよた苑・保見の里】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	自治会及び地域住民との関係づくり	共通	防災訓練の実施、地域活動への参加	<p><第2>大清水町自治会長へ防災訓練への参加の申入れ、自治区行事への出席など関係づくりに取り組む</p> <p><保見>包括を中心に、地域行事に参加し有事の際の行動等について自治区と共有</p>
		交流スペース等を活用した地域交流、地域連携事業の実施	包括・デイ	地元自治会との意見交換、事業実施	<p><第2>運営推進会議においてサービス実施状況を報告。出席者から意見を聴取</p> <p><保見>自治区の会議等に出向き定期的に意見交換を実施。</p>
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	浴室改修、空調設備・照明器具等の更新	特養・デイ	<p><第2>特養共用部をガスヒーポンへ切替検討、居室空調15台入替</p> <p><デイ>歩浴浴槽改修ならびにチェアインバス設置検討</p> <p><保見>浴室改修の検討、機種を選定、居室空調15台入替、ナースコール入替</p>	<p><第2>共用部の空調入替完了。居室空調15台入替完了</p> <p><デイ>歩浴浴槽改修案をもとに検討中</p> <p><保見>居室空調15台入替完了。ナースコール入替済。浴室改修は施設増改築時で検討のため進捗なし</p>
	事業の充実と稼働率向上	需要に合った機器の選定、機能訓練の充実	デイ	機器の選定、導入	<デイ>レッグプレス導入（機能訓練リハビリ機器）

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況	
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	資格取得支援、内外研修の受講促進	共通	資格取得に向けた意向確認と、個々の能力に応じた研修の提案、受講を促進	<第2、保見> 意向を確認し研修については都度案内。研修受講時の勤務調整実施	
		ユニットリーダーの育成	特養	ユニットリーダー研修受講（実地・演習）	<第2> 2名受講終了 <保見> 今年度1名終了	
	業務の改善・効率化	業務の効率化、業務負担の軽減	共通	実施	<第2> フレックスボード、フルクライニング車椅子導入により移乗時の負担軽減を図る <保見> 介護用リフトの検討、デモを繰返し実施。構造上リフトの採用には至らず他の移乗用福祉用具を導入	
				<第2> 申請許可が下り次第設置	<第2> 設置完了	
	施設設備の計画的な改修・更新	職員駐車場の照明確保				
		大規模改修に向けた現況確認	第2とよた苑	現状調査と検討 順次着手	<第2> 業者へ改修案の提示を依頼中	
	職員、来客駐車場の拡充	保見の里	<保見> 自治区と協議	自治区と協議のうえ11月に賃貸借契約を締結。12月から使用開始		

【大府の郷】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	地域のコミュニティ向け介護教室の開催や講師の派遣	共通	介護教室の案内、要望調査、調整、開催 講師の派遣	介護教室4地区開催（前屋敷・共和コーポラス・平手・白紗池地区）※五ツ屋地区で介護教室開催予定(3/8)
利用者サービスの向上	介護負担の軽減及び安心安全な入浴提供	入浴設備の見直し	特養	個別浴槽の入替、運用	個別浴槽2台設置完了
	介護負担の軽減及び安心安全な移乗	通常の車いすでは対応できない入居者向けの車いすの整備《新規》	特養・短期	フルクライニング車いすの導入、運用	6台導入、運用中

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
利用者サービスの向上	利用者の安全確保	ベッドからの転落による骨折事故等のリスク軽減《新規》	特養・短期	超低床ベッドの購入、運用	6台導入、運用中
職員の成長・業務の改善	利用者の確保	リハビリ機器の拡充	デイ	専門職による運用	継続中
	職員の資質向上	資格取得支援、内外研修への参加推進	共通	推進	認知症管理者・実践者・基礎研修、ユニットリーダー研修、介護福祉士、介護支援専門員等、計20名受講・受験
	労働環境の維持	年次有給休暇の計画的取得促進		付与日数の50%取得	付与日数の50%である837.5日に対し、総取得日数1,146日。対象109名に対し達成者91名（83.4%）（1/28現在）
	業務の改善・効率化	ナースコール設備の更新	特養・短期	運用	運用中

【若草苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	集会室を活用した地域交流の実施	養護	地域交流としてポッチャ大会を開催（地元の学校、ボランティア、児童養護施設等への参加依頼）	トヨタ自動車SX会の運営協力を得て、ポッチャ・輪投げの競技大会を開催。地元の中학생、児童養護施設の児童及び若草苑入居者が参加、交流
		地域における公益的な取組みの実現		事業実施	地域貢献事業として6月から毎月月末に「買物送迎支援事業」を実施。毎回、社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生委員との振り返り会議を実施、定着
		地域との連携、地域との災害時の協力体制構築《新規》		地域活動への参加、防災訓練等の企画・実施	民生委員と災害時の協力体制について依頼・確認
利用者サービスの向上	施設設備の新設	災害用自家発電設備の設置	養護	運用	炊き出しセット「デリバリーステーション」を用いた炊き出し訓練を実施
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	導入したICT、ソフトウェアの活用技術の向上		施設に合ったマニュアルの作成	簡易的なマニュアルを作成。今後、マニュアルの充実化を実施予定
	業務の改善・効率化	間接業務の負担軽減		業務効率化が可能な間接業務の検討と実施	生産性向上委員会を発足。効果面では不十分

【春日苑・ワーカー鷹来】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	事業の拡充	障がい者グループホームの設置	支援施設・ 就労B	本部と共に多機能型検討（ワーカー鷹来）	地域性、収益、人員確保等を鑑みR7年度の設置なし。保護者会からの設置要望は継続中
	情報発信力の強化	保護者及び地域に対する新たな情報発信ツールの確立		実施、改善	インスタグラムを開設、週1回の会議と定期的投稿を実施
	地域との交流・地域貢献の促進	地域との結びつきの強化	支援施設	ニーズに合わせた事業の検討	ボランティアの受入れを再開。まだコロナ禍の影響があり、地域との交流は縮小状況
		地域交流の場とする生活介護棟の活用方法を検討	支援施設・ 支援センター	地域ニーズの把握。ニーズに合わせた改修等の検討	次年度に、生活介護棟の改修工事の実施予定。1室を改修し、地域の方々も利用できる場所作りを推進
事業の見直し	生活介護との複合施設等の検討	就労B	実施施設の調査、情報収集、研究	春日井市からの要望もあり、法人本部とともに生活介護事業の運営を検討。春日井市福祉作業所の見学、他事業所の日中活動調査を実施	
利用者サービスの向上	職員の確保	施設の認知度アップ	支援施設・ 支援センター	福祉体験等の実施、改善	福祉体験内容を確定。実施場所、時期の検討中（地域、施設での感染症の影響により実施できず）
	介護ロボットの活用	新たな介護ロボット等の導入	支援施設	導入、運用 （新たな機器の検討は継続）	ノーリフティングケア研修への参加、介護ロボットの見学会参加、移乗用機器活用の取組みを実施。5台ある移乗用機器をフルに活用
	日中活動の充実	施設内外における活動への支援		運用、実施、見直し	コンビニ外出、ヘルパー活用での個人外出、季節イベントの充実、看護職員による利用者を対象とした感染症対策講座等を実施
	施設設備の計画的な改修・更新	改修等による利用者の生活利便性向上		工事等の実施（必要に応じて）	食堂テーブルの天板張替え実施。1階浴室廊下の仕切りカーテンを検討

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
利用者サービスの向上	利用者の確保	利用者送迎の実施による利便性の向上、安定的な利用者確保	就労B	運用、改善	利用者ニーズ、コース等を検討しつつ送迎を実施。養護学校生徒の実習受入れを行い、R7年度の新卒者3名を確保
職員の成長・業務の改善	業務の改善・効率化	ICT活用・ペーパーレス化の促進	共通	実施、改善	見守りロボット「眠りスキャン」の有効活用に取り組み、夜勤帯の業務改善を実施。ペーパーレス化は、プロジェクター投影による各種会議、委員会を実施。ロボット掃除機の導入により、食堂清掃業務の負担を軽減
		ICT活用による情報管理の負担軽減	支援センター	情報収集、検討	パソコンの入れ替え、他事業所との紙媒体によるやり取りのメール化を実施（メール化の進捗率5%）
	職員の資質向上	資格取得保有者の増強	共通	適任者の選定、研修等への参加支援	サービス管理責任者1名、認定特定行為業務従事者4名、相談支援専門員1名、主任相談支援専門員1名取得
		講師の育成	支援施設・支援センター	講師の育成 地域や学校等への情報発信の実施	春日苑職員を対象とした相談支援員による研修（喀痰吸引）を実施。地域・学校への情報発信については感染症等の影響があり未実施
	他施設等との連携強化	障がい福祉団体に加入し、情報交換、将来展望の検討	就労B	将来展望を協議できる職員の資質、技量の向上 研修への参加	定期的に動画研修案内が送られてくるが活用できず
	職員間交流の向上	休憩スペースの有効活用	支援施設・支援センター	職員ニーズの把握 休憩スペースの環境整備及び備品等の設置検討	新たなインドネシア人職員を含めたニーズを把握し休憩場所の見直し中。生活介護棟の1室をR7年度に改修し、休憩場所としての活用を検討中。

【サンホーム豊田】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	事業の拡充	障がい者グループホームの設置	共通	本部と共に施設整備計画の策定 地域移行対象者の検討、準備	現在、保留中のため進捗なし
	地域との交流・地域貢献の促進	自治会及び地域住民との関係づくり	生活介護 (入所・通所)	クリーン活動の範囲の検討 自治会へのアプローチ、自治会行事への参加 体制の整備、見直し 学校との連携強化	月2回、美里地区の民生委員（障がい部会）とともに五ヶ丘地区の公園から施設までのクリーン活動を実施。自治会行事の夏まつり、防災行事に参加
利用者サービスの向上	職員の確保	実習生の受入れ	生活介護 (入所)	中高年のパート職員の雇用 実習生に対する雇用促進	社会福祉士、保育士、教員実習を受入。介護福祉士は実習の依頼なし
		新規・中途の雇用（職員配置 2：1→1.7：1）			中途正規採用者3名（うち1名は人材紹介）、パート採用者1名（豊田市の事業による学生1名）
	ICT・介護ロボットの活用	見守り支援機器の導入 強度行動障害への支援	施設入所	導入、運用	見守りカメラ（ロボット）をショートステイの全居室、入居利用者の一部居室、共用部に設置
施設設備の計画的な改修・更新	感染症対策（ゾーニング）のための改修又は設備の購入	設置、実施 感染症BCPの見直し		感染症BCPについては、適宜見直しを検討するも大きな修正はなし。ゾーニングに対応する改修は困難	
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	資格取得支援（介護福祉士、社会福祉士、サビ管、強度行動障害研修）	共通	資格取得の促進 研修の参加	介護福祉士の資格取得については、対象実務年数に達した職員に声をかけ、積極的に支援。サビ管、強度行動障害者研修は、計画的に受講
		強度行動障害の理解・知識向上 強度行動障害支援の計画シート・手順書に基づく支援の実施	施設入所	研修動画「Lean on Me」の活用 計画・手順書の見直し、実施	研修動画「Lean on Me」は勉強会等で引き続き活用中。計画・手順書は、部会やグループ活動にて支援内容を検討し、見直し、修正を実施
	業務の改善・効率化	障がい者雇用の促進	生活介護 (入所)	施設内外の環境整備・清掃等の間接業務を担う障がい者雇用の促進	就労移行支援事業所と連携し、施設見学・実習を受入れ ※通所に非常勤生活支援員1名を障がい者雇用

【さくら保育園】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	情報発信力の強化	入園児の安定確保 一時保育利用者の新規利用拡大およびリピート率の向上	保育	園児学級の積極的な受け入れ パンフレット、ホームページの活用 一時保育利用の登録促進	毎月第2・4木曜日に未就園児対象の園庭開放を実施 ※R6年度は親子で111名参加
	地域との交流・地域貢献の促進	地域における公益的な取組みの実施		実施	年長児の出川小学校訪問を実施し1年生との交流会に参加 出川小学校の教員と保育士との意見交換を実施 南城中学校区の主任児童委員との連絡会議を実施
利用者サービスの向上	職員の確保	保育士養成校との連携強化		保育実習生の積極的な受け入れ 就職フェアへの参加	春日井市の就職フェアに参加 保育士養成校の大学生を保育補助者として2名採用
	保護者の負担軽減	手ぶら登園導入の検討		手ぶら登園の内容の検討 保護者向けのアンケートの実施	保護者アンケートを実施。複数の業者と内容の検討
職員の成長・業務の改善	ワークライフバランスの推進	業務の見直し、簡素化の検討		効率化が可能な業務の洗い出し 年次有給休暇の取得促進	園児向けの配付物をPDF化。ルクミーアプリから配信することで効率化を実現 正規職員有給休暇付与日数に対して平均取得率50%
	職員の資質向上	経験年数に応じた研修参加の促進		個別目標に向けた研修参加の促進	正規職員の保育連盟、保育課主催研修の参加率100%

【さくら第2保育園】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況	
経営の安定	事業（保育の量）の継続	恒常的な園児確保	保育	実施	定員150名に対し164名確保（R6年度） ※R7年度は156名確保	
	地域との交流・地域貢献の促進	地域における公益的な取組みの実施		民生委員児童委員協議会及び自治会との意見交換、空き部屋の有効活用についての検討	実施	民生委員児童委員と定期的に意見交換を実施。保育園に空き部屋はないが、民生委員主催の地域食堂との交流を実施中
		地域行事への積極的参加		実施	地域の盆踊り大会に参加	

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2024	進捗状況
経営の安定	防災対策の強化	非常災害時における体制整備の強化、徹底	保育	地域との合同訓練実施計画策定	計画中
利用者サービスの向上	職員の確保	養成校への就職促進		ボランティア、実習生の積極的な受入 保育補助としての学生アルバイトの受入	保育補助1名、ボランティア2名受入れ
	配置基準の拡大	人員配置の上乗せ基準実施による安全保育の確保		私立園長会を通じた春日井市への要望提出	私立園長会の分科会で意見をまとめ、春日井市との話し合いを実施
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	キャリアアップ研修参加によるリーダー職員の育成		研修参加	春日井市主催の研修及びオンライン研修に全職員が2回以上参加
		他園との交流促進		実施	坂下南保育園、さくら保育園との交流訪問を実施
	業務の改善・効率化	間接業務の負担軽減		具体化、実施	年次休暇を平均7日以上取得、ICTによる業務削減

2 中期事業計画 2025-2027

【法人本部】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2025	2026	2027
経営の安定	事業の拡充	障がい者サービス事業（グループホーム等）の拡充	<豊田地区>グループホームの実現可能性について調査、検討	検討結果に基づき対応	→
			<春日井地区>「ワーカー鷹来」施設内への生活介護事業の併設について、定員、配置計画の検討	施設整備計画の策定	施設整備計画の実施
		在宅サービス充実強化による利用者の確保	サービス内容の充実化について検討	→	
	情報発信力の強化	利用者・家族及び広く地域社会への情報発信	SNSによる広報の充実、ホームページ・法人広報誌による情報発信	→	→
利用者サービスの向上	職員の確保	外国人介護士の受入拡大	在留資格「特定技能」制度による外国人介護士の受入	→	→
		専門学校等との連携強化による学生（日本人・留学生）の安定確保	専門学校等との連携強化について協議	→	→
		奨学金制度を活用した遠隔地高校生・専門学校生の採用増	他県の高校、専門学校への情報提供	→	→
		インターンシップ、オープンカンパニーの受入実施	専用サイト等を活用した受け入れ実施	→	→
	ICT・介護ロボットの活用	実用的な介護ロボットの導入	移乗、排泄サポートロボットの計画的導入	→	→
	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化対策及びサービス向上のための施設・設備の更新	<保見の里>ショートステイ増設のための施設整備計画の策定、準備	施設整備の実施	ショートステイ事業の実施
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	役職者の研修プログラムの再構築によるリーダー職員の育成	将来管理職員として期待される役職者を対象としたリーダー人材の育成	→	→
		ICT、ソフトウェアの活用技術の向上	ICT機器等を活用した生産性向上の推進	→	→
		職種間、事業所間交流の促進	事業所間で課題検討、改善	→	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2025	2026	2027
職員の成長・業務の改善	職員のモチベーション向上	ソウェルクラブの活用促進	研修等を通じて具体的な活用例を紹介するなど活用を促進	→	→
		外国人・遠隔地採用者のための職員寮の拡充	随時実施	→	→
	業務の改善・効率化	ノーリフティングケアの推進	ノーリフティングケアの定着支援	→	→
		高齢者、障がい者雇用の促進	シーツ交換、洗濯、清掃などの間接業務を担う高齢者、障がい者雇用の促進	→	→
		顧問弁護士の配置	各施設へのサポート、研修の実施	→	→

【春緑苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	施設機能の地域への還元	共通	認知症に関する講演会と学習会の実施	→	
				施設全体の見学会の実施	職員による地域住民向けの介護技術や介護予防の勉強会の実施	
	情報発信力の強化	予防フロアを活用した地域交流、地域連携事業の実施	デイ	交流地域の拡大	→	→
		居宅連を通じた連携《新規》		居宅連の大会・勉強会、地域活動への参加	→	→
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化及び部品一部生産中止に伴う空調設備の改修《新規》	特養	該当空調設備の調査及び改修計画立案	実施	→
		感染症対策のための空気清浄機の設置		特養1期棟2・3階への導入	特養2期棟への導入	特養3期棟への導入
	職員の確保	実習生の積極的受入《新規》	特養	介護実習生受入	介護実習生受入強化（教育機関への営業、契約件数の増加）	→
		社会福祉士実習受入の体制整備（社会福祉士実習指導者講習への参加、マニュアル整備）		教育機関との契約 社会福祉士実習生受入れ開始	体制強化（実習指導者の増員）	

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
利用者サービスの向上	職員の確保	福祉施設見学会ツアーの導入実施 《新規》	特養	見学会の計画立案 見学会の体制整備（他事業所への協力 依頼・介護分野の教育機関へ情報提供）	見学会実施 体制強化（HPへの掲載、教育機関との連携強化）	→
	相談窓口の新設	担当地区（高森台・石尾台）内に 相談窓口を新設	包括	実施		
	環境整備	入居者の憩いの場づくり《新規》	グル	ホーム周辺的环境整備 ホーム中庭の憩いの場の整備	中庭を活用した認知症進行軽減 のケアの実施	→
職員の成長・ 業務の改善	介護負担の軽減及 び生産性向上	ノーリフティングケアの定着《新規》	特養	体制強化（ノーリフティングケア専門 研修への参加促進） リフトの増台	入浴用リフトの導入	定着 ノーリフティングケア実践施設認 定取得の検討
		生産性向上に向けた業務改善の取 組《新規》		ICT機器等を活用した生産性向上の推 進	→	→
	職員の資質向上	介護支援専門員資格取得の推進 認知症実践者研修、認知症管理者 研修等の参加	デイ	実施	→	→

【第2春緑苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定化	防災対策の強化	BCP見直し体制の整備	在宅	BCP運用推進委員会活動内容の整理	拠点内各BCPの整合性確認	→
		地域及び消防署との連携		実施 地域住民、保育園、近隣事業者の参加 促進	→	→
	地域との交流・地 域貢献の促進	ボランティア受入の見直し	共通	ボランティア受入の検討見直し（入 所） 感染関係マニュアル及びボランティア 受入マニュアル整合性確認（デイ）	ボランティア要望の整理、募集 方法の検討	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定化	稼働安定化のための組織体制整備	相談員を中心とした計画的な活動の実施と評価	デイ	会議頻度及び協議内容の見直し	→	→
	介護の生産性向上に向けた取組み	サービスの質の確保及び負担軽減に資する取組検討体系の構築《新規》	特養	ガイドラインに沿った活動内容整備（現状分析及び対策検討）	対策実施、他施設状況情報収集、設備投資が必要なものの協議検討	→
利用者サービスの向上	職員の確保	実習生受入の強化	共通	実習受入体制整備（担当者の育成、環境整備）	→	→
職員の成長・業務の改善	労働環境改善	年次有給休暇の計画的取得推進		付与日数の60%取得	付与日数の65%取得	付与日数の70%取得
		配置に合わせたスペースの確保（感染等も配慮）	包括	全体以外見直し検討、対策実施	→	→
	職員の資質向上	資格取得支援/内外研修参加促進	共通	実施	→	→
		実習生受入		受入体制維持（担当者の育成、環境整備）	→	→
		専門性の向上と標準化	デイ	事業所間交流での情報収集及び内容の協議検討、内外研修の計画的受講	→	→
	職員育成とメンタルケア	計画的かつ効率的な面談の実施	共通	実施内容評価と整理	→	→
	間接業務の負担軽減	新規課題の抽出《新規》		新規課題の抽出検討実施	課題解消対策立案、対策実施	→
	業務の標準化	外国人介護職員の指導・教育体制整備	特養	研修機会の創出 ヒアリング（外国人及び受入ユニット職員）実施による課題抽出	課題解消対策立案/対策実施	→

【とよた苑・東山デイ】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定	感染症対応強化	感染症BCPの実用性向上	共通	見直しと訓練による実用性向上	→	→
	稼働率の維持	地域への情報発信による利用者の確保		多種多様な広報ツール(SNS等含む)を活用し、地域の居宅介護支援事業所やコミュニティなどへの情報発信	→	→
		近隣企業への情報発信による利用者を確保		近隣企業へ「介護離職の防止」をテーマとした介護保険制度及び介護サービス事業所等の説明会を提案	実施	→
	地域との交流・地域貢献の促進	ボランティアの受入拡大と交流活動の実施		ボランティア団体を中心とした交流会の計画実施	→	→
		地域との交流・連携 地域との災害時の協力体制構築		連携先の確保、連携方法検討	実施	→
	事業の充実と稼働率向上	LIFE等のデータを活用した質の高い介護の推進	カンファレンスでのデータ活用、実施、評価	→	→	
		医療機関との連携体制の構築	特養	実施		
	サービスの充実、特色作りによる利用者の獲得	とよた苑デイ	リニューアルオープンを切り口にした情報の発信、個別ケアの強化	情報の発信、個別ケアの強化	→	
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化した設備（居室内トイレ、ミニキッチン温水器、室内照明）の更新	ケアハウス	設備更新の優先順位を決定し更新計画を策定、順次実施	→	→
		感染対策、業務効率を図るための改修計画及び実施	とよた苑デイ	厨房移設後、温冷配膳車の導入		
		老朽化・感染予防のための改修	東山デイ	修繕・改修の実施	→	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
利用者サービスの向上	職員の確保	業務、マニュアル見直しによる省力化（ムリ・ムダ・ムラの削減） 《新規》	特養	業務、マニュアル見直し	→	→
		継続的な採用活動 登録ヘルパーの確保	ヘルパーステーション	介護福祉士実務者研修等による人材勧誘・採用	→	→
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	チームリーダーとしてメンバーをまとめ、部下の育成指導をする職員を養成し、組織を活性化	共通	個々のレベルに応じたOJT、OFF-JT、SDSを活用した人材育成	→	→
		外国人介護職員に対する育成プログラムの作成	特養	育成プログラムの作成 サポート体制の構築	→	→
		ショートステイ運用の見直し		個別ケアの定着・実践	→	→
	業務の改善・効率化	生産性向上に向けた業務改善の取組	共通	実施	→	→
ノーリフティングケアによる身体的負担軽減		特養	推進体制強化	ノーリフティングケアの定着	→	

【第2とよた苑・保見の里】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	自治会及び地域住民との関係づくり	共通	防災対策等の情報共有、地域活動への参加	→	→
		交流スペース等を活用した地域交流、地域連携事業の実施	包括・デイ	地元自治会との意見交換、事業実施	→	→
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	浴室改修、空調設備・照明器具等の更新	特養・デイ	<第2>居室空調15台入替 <保見>居室空調13台入替	<第2>居室空調25台入替	<第2>居室空調20台入替
	事業の充実と稼働率向上	需要に合った機器の選定、機能訓練の充実	デイ	機器の選定、導入	→	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	資格取得支援、内外研修の受講促進	共通	資格取得に向けた意向確認と、個々の能力に応じた研修の提案、受講を促進	→	→
		ユニットリーダーの育成	特養	ユニットリーダー研修受講（実地・演習）	→	→
	業務の改善・効率化	業務の効率化、業務負担の軽減	共通	ノーリフティングケア及びICT機器を活用した生産性向上の推進	→	→
		施設設備の計画的な改修・更新	第2とよた苑	現状調査と検討 順次着手	→	→
	施設増改築計画の検討《新規》	保見の里	本部と協議	本部と共に施設整備の実施	本部と共にショートステイ事業の実施	

【大府の郷】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	地域のコミュニティ向け介護教室の開催や講師の派遣	共通	介護教室の案内、要望調査、調整、開催 講師の派遣	→	→
利用者サービスの向上	介護負担の軽減及び安心安全な入浴提供	入浴設備の見直し	特養	特殊浴槽を1台追加整備、運用	運用	→
	介護負担の軽減及び安心安全な移乗	通常の車いすでは対応できない入居者向けの車いすの整備	特養・短期	フルクライニング車いすを6台追加整備、運用	運用	→
	利用者の安全確保	ベッドからの転落による骨折事故等のリスク軽減		超低床ベッドを6台追加整備、運用	運用	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
職員の成長・業務の改善	利用者の確保	リハビリ機器の拡充	デイ	専門職による運用	→	→
	職員の資質向上	資格取得支援、内外研修への参加推進	共通	推進	→	→
	労働環境の維持	年次有給休暇の計画的取得促進		付与日数の50%取得	→	→
	業務の改善・効率化	生産性向上に向けた業務改善の取組《新規》	特養	ICT機器等を活用した生産性向上の推進	→	→
			特養・短期	運用	→	→

【若草苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	集会室を活用した地域交流の実施	養護	地域交流会としてポッチャ競技+露店企画にて開催（地元の中学校、ボランティア、児童養護施設等への参加依頼）	→	→
		地域における公益的な取組みの実現		「買物送迎支援事業」を毎月1回実施	→	→
		地域との連携、地域との災害時の協力体制構築		地域関係者との連携、災害時の協力体制を確認できる場を設定	→	→
利用者サービスの向上	日中活動の充実	施設内外における活動支援《新規》	養護	利用者ニーズに応じた新たな活動の企画、実施	→	→
	利用者のADL低下防止	個別機能訓練の充実化《新規》		個別機能訓練使用機器とプランの充実による転倒事故数の減少	→	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	導入したICT、ソフトウェアの活用技術の向上	養護	施設に合った機器活用マニュアルの充実化	→	→
		移乗介助技術の向上《新規》		移乗介助技術と機器の勉強会を実施	→	→
	業務の改善・効率化	間接業務の負担軽減		定期的な生産性向上委員会における課題検討と実施	→	→

【春日苑・ワーカー鷹来】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定	事業の拡充	障がい者グループホームの設置	支援施設・就労B	グループホームの実現可能性について調査、検討	検討結果に基づき対応	→
	情報発信力の強化	保護者及び地域に対する新たな情報発信ツールの確立		継続、改善	→	→
	地域との交流・地域貢献の促進	地域との結びつきの強化	支援施設	地域連携推進会議の開催。ボランティア受入れの拡大。地域行事への参加	継続、検討	→
		地域交流の場とする生活介護棟の活用方法を検討	支援施設・支援センター	改修の実施と活用開始。地域への情報発信	運用、設備の見直し	→
	事業の見直し	生活介護との複合施設等の検討	就労B	ワーカー鷹来多機能化について検討	本部と共に施設整備計画の策定	本部と共に施設整備計画の実施
利用者サービスの向上	職員の確保	施設の認知度アップ	支援施設・支援センター	福祉体験等の実施、改善	継続、検討	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
利用者サービスの向上	介護ロボットの活用	新たな介護ロボット等の導入	支援施設	導入、運用（新たな機器の検討は継続）	見直し、検討	→
	日中活動の充実	施設内外における活動への支援		運用、実施、見直し	→	→
	施設設備の計画的な改修・更新	改修等による利用者の生活利便性向上		工事の検討(照明のLED化)	工事等の実施（必要に応じて）	→
	利用者の確保	利用者送迎の実施による利便性の向上、安定的な利用者確保	就労B	老朽化した設備（外壁、トイレ、照明等）更新の検討	工事等の実施（必要に応じて）	→
				送迎の運用、改善 運転手等の人材確保	→	→
職員の成長・業務の改善	業務の改善・効率化	ICT活用・ペーパーレス化の促進	共通	実施、改善内容を検討	→	→
		ICT活用による情報管理の負担軽減	支援センター	情報収集、検討	→	→
			就労B	スマートレジの導入検討（売上や分析、在庫管理の負担軽減）	導入、運用	→
	職員の資質向上	資格取得保有者の増強	共通	適任者の選定、研修等への参加支援 強度行動障害研修の受講	→	→
		講師の育成	支援施設・支援センター	講師の選定と育成 地域や学校等への情報発信の実施	→	→
	他施設等との連携強化	障がい福祉団体に加入し、情報交換、将来展望の検討	就労B	職員の資質向上のため研修への参加	→	→
	職員間交流の向上	休憩スペースの有効活用	支援施設・支援センター	改修工事実施と運用開始 整備及び備品等の設置検討と選定	運用、設備の見直し	→

【サンホーム豊田】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定	事業の拡充	障がい者グループホームの設置	共通	グループホームの実現可能性について調査、検討 地域移行の推進	検討結果に基づき対応	→
	地域との交流・地域貢献の促進	自治会及び地域住民との関係づくり	生活介護 (入所・通所)	自治会へのアプローチ、自治会行事への参加 学校との連携強化	→	→
利用者サービスの向上	職員の確保	実習生の受入れ	生活介護 (入所)	中高年のパート職員の雇用 実習生に対する雇用促進	→	→
		新規・中途の雇用（職員配置2：1→1.5：1）	生活介護 (入所)	ICT機器等を活用した生産性向上の推進	→	→
	ICT・介護ロボットの活用	見守り支援機器の導入 強度行動障害への支援	施設入所	検討	実施	
	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化に伴う改修（EV、空調、配管）《新規》				
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	資格取得支援（介護福祉士、社会福祉士、サビ管、強度行動障害研修）	共通	資格取得の促進 研修の参加	→	→
		強度行動障害の理解・知識向上 強度行動障害支援の計画シート・手順書に基づく支援の実施	施設入所	研修動画「Lean on Me」の活用 計画・手順書の見直し、実施	→	強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）の受講 外部コンサルタントによるスーパービジョン（年4回）の実施
	業務の改善・効率化	障がい者雇用の促進	生活介護 (入所)	施設内外の環境整備・清掃等の間接業務を担う障害者雇用の促進	→	→

【さくら保育園】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定	情報発信力の強化	入園児の安定確保 一時保育利用者の新規利用拡大およびリピート率の向上	保育	園見学者の積極的な受け入れ パンフレット、ホームページの活用 一時保育利用の登録促進	→	→
	地域との交流・地域貢献の促進	地域における公益的な取組みの実施		出川小学校の教員との意見交換の実施 年長児の出川小学校訪問の実施	→	→
利用者サービスの向上	職員の確保	保育士養成校との連携強化		保育補助者の積極的な採用 就職フェアへの参加	→	→
	保護者の負担軽減	手ぶら登園導入の検討		導入に向けた業者の選定及び保育体制の見直し	導入	
職員の成長・業務の改善	ワークライフバランスの推進	業務の見直し、簡素化の検討		効率化が可能な業務の洗い出し 年次有給休暇の取得促進	→	
	職員の資質向上	経験年数に応じた研修参加の促進		個別目標に向けた研修参加の促進	→	→

【さくら第2保育園】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
経営の安定	事業（保育の量）の継続	恒常的な園児確保	保育	園の特色をホームページ、SNSで発信	→	→
	地域との交流・地域貢献の促進	地域における公益的な取組みの実施		民生委員児童委員協議会及び自治会との意見交換、空き部屋の有効活用の実施	→	→
		地域行事への積極的参加		盆踊り大会に加えグラウンドゴルフ大会等地域行事への参加計画	→	→
	防災対策の強化	非常災害時における体制整備の強化、徹底		地域との合同訓練実施	→	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	2026	2027
利用者サービスの向上	職員の確保	養成校への就職促進	保育	ボランティア、実習生の積極的な受入 保育補助としての学生アルバイトの受入	→	→
	配置基準の拡大	人員配置の上乗せ基準実施による 安全保育の確保		私立園長会を通じた春日井市への要望 提出	→	→
職員の成長・ 業務の改善	職員の資質向上	キャリアアップ研修参加による リーダー職員の育成		経験年数に応じた研修に参加	→	→
		他園との交流促進		実施	→	→
	業務の改善・効率 化	間接業務の負担軽減		見直し、改善	→	→